

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
推進校実施報告書

1 学校名：札幌市立信濃小学校

2 実施日時：事前指導（社会科）2017（平成29）年12月12日（火）14：15-15：00
ミュージアム見学 2017（平成29）年12月13日（水）9：45-11：15
事後指導（社会科）2017（平成29）年12月14日（木）13：25-14：10

3 対象：事前・事後指導 生徒35名（3年生）
ミュージアム 生徒97名（3年生全クラス）

4 派遣オリンピックアン：畑中みゆき さん
（オリンピック女子モーグル ソルトレイクシティ・トリノ大会 出場）

5 授業内容：授業（社会科）、ミュージアムの見学、講演

2017（平成29）年12月12日（火）から12月14日（木）にかけて、札幌市立信濃小学校にて、札幌オリンピックミュージアムを活用したオリンピック教育が行なわれました。プログラムの概要は、以下の通りです。

まず事前指導として、社会科の小学校三年生の学習内容である「自分の住んでいる地域の観察、調査」に関する単元の中の「公共施設などの場所と働き」を取り上げた授業が行なわれました。公共施設は「みんなのためにつくられた施設」であるという説明を受けたうえで、児童たちは身近な公共施設を挙げていきました。そして、たくさんある公共施設の一つとして「札幌オリンピックミュージアム」を取り上げ、札幌オリンピックミュージアムがどのような意味で「みんなのため」になっているのかを児童に考えさせました。

そして翌日、実際に札幌オリンピックミュージアムに行きました。札幌オリンピックミュージアムでは、オリンピック女子モーグルの畑中みゆきさんの講演、ミュージアム内にある体験型の施設の観覧、学芸員の方の説明を聞きながら展示物の観覧、そして大倉山ジャンプ競技場の観覧を行いました。講演において畑中みゆきさんは、競技の映像も交えながらオリンピックに出場するためには目標をもって継続的に努力を惜しまないことが大切で、それは普段の生活においても重要である、ということをお話しされていました。体験型の施設の観覧では、スキージャンプやボブスレーなどのアトラクションに積極的に挑戦している様子が見られました。展示物の観覧では、実際のメダルや昔のスキー用具など、普段目にすることがない貴重なものを見ながら、学芸員の方の説明に聞き入っている様子でした。最後に、大倉山ジャンプ競技場の観覧では、その大きさに多くの児童が驚いている様子でした。

さらに翌日、事後指導として、調査で得た情報をもとに、札幌オリンピックミュージアムはどのような施設なのかを考える社会科の授業が行なわれました。まず、児童は観覧しながら書いた自分のメモとパンフレットをもとに、情報を整理していました。そして、先生の「札幌オリンピックミュージアムはどのような施設だったか」という問いかけに、自分のまとめたノートをもとに積極的に手を挙げて回答していました。授業終了後には、授業を実施して下さった先生と授業を観覧いただいた教育委員会等の先生方が集まり授業検討会が開かれました。札幌市独自のオリパラ教育をどのように展開していくのか、という点を中心に活発な議論が行なわれました。

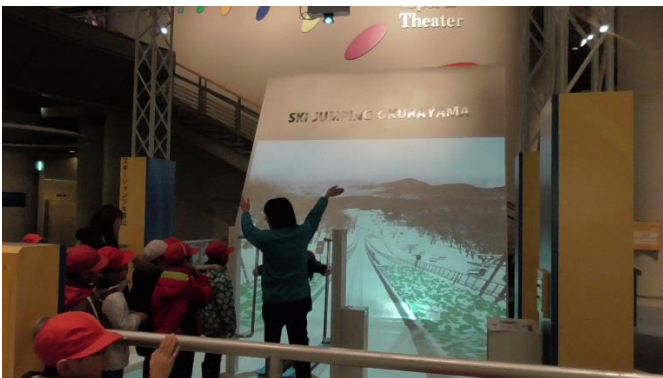
6 授業の様子



【 ミュージアムでの講演 】



【 ミュージアムでの体験① 】



【 ミュージアムでの体験② 】



【 ミュージアムでの見学 】



【 先生が課題を提示している様子 】



【 児童が資料をもとに考えをまとめている様子 】



【 児童が自分の考えを発表している様子 】



【 授業後の検討会 】